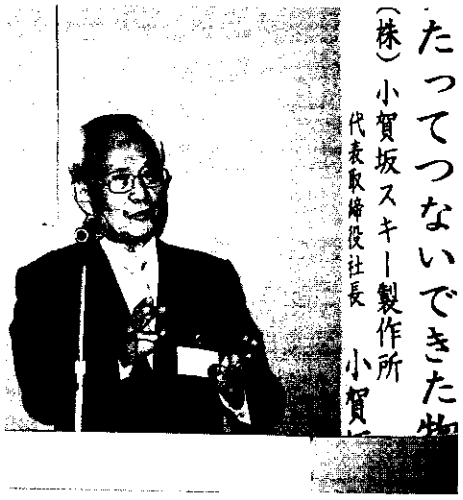
その後、明治42年に北大予科に赴任したスイスのハンス・コラー先生が、本国からスキーを取り寄せて学生に履かせたと書いております。本人はスキーが出来なかったようです。

１台のスキーでは、学生達が滑れないということで札幌の馬橇屋とか、鍛冶屋にお願いして締め具を作ってもらい使ったという記録があり、本当にスキーを作ったというのは、このあたりが第１号ではないかと思っております。

そして、明治43年オーストリアのレルヒ少佐が日本に参っております。これはスキーのためではなく、むしろ日清・日露戦争において日本が戦争に勝った、日本の軍事力を視察するために派遣されたと言われております。そして、日本がスキーのできる国であるならば「自分は雪国に行きたい」と、申し述べたようで翌年明治44年が日本スキーの発祥年となるわけでございます。１月12日に高田に赴任され、東京で砲兵工廠に作らせたスキーを持参し、スキー連隊の10名の将校にスキー指導をしました。これが日本スキー発祥ということになります。この時に、高田連隊でもスキーのことを勉強して、スキーを用意しなくては練習できないと、町の大工さん、加治屋さんにスキー作りを命じたようです。



私共がスキーを作る前に、札幌や新潟県高田でスキーは既に作られていたということです。

明治45年は、日本のスキーにとって記念すべき年でございまして、この時の高田連隊の師団長であります長岡外史さんという方が非常にスキーの重要性を認識されていたと伺っております。

レルヒ少佐のスキーを一般の人を対象としたスキー講習会を開催させ、長野県からも２名参加したということでございます。その１名の方が、飯山中学（現在の飯山高校）の体育教師市川達護でこの方は飯山のお寺の住職さんでございます。

その方が10日間の講習に参加され、２台のスキーを携えて飯山に帰り、明治45年１月26日スキーを履いて坂道を滑り中学に登校しました。これが飯山において、初めてスキーが滑られた日だとされております。そして、飯山中学校長・佐々木嘉哉（てっさい）先生が市川先生の話を聞いて、これは雪国、北国の子供達にはもってこいのスポーツだということで、私どもの先祖、小賀坂濱太郎を呼んで40台のスキーづくりを命じたのが明治45年２月でございます。スキーという物を見たことも、聞いたこともないので、40台を命じられた時は大変な驚きだったと思います。ですから、高田に参加された市川先生が付きっきりで指導し、高田のスキーづくりを見学してスキーづくりに入って行ったということでございます。

この時、高田から持ち帰ったスキーというのは、ケヤキ製のスキーということですが、ケヤキでは高価過ぎる、製作も困難だということで、松の木を使って40台のスキーを短期間で作り上げたようです。

小賀坂家について申し上げますと、代々お城の「柵い方（敵の侵入を防ぐための柵作り役）」を務め、お城がなくなってからは「かんご造り（和紙の原料）」を三代にわたって従事、大変名人肌の家系だという風に伝えられております。飯山中学に納めました「演台」が、30年経っても一つの狂いもない家具作りを、濱太郎はやっており、大変信用されていたようでございます。濱太郎は、大変研究熱心で、物作りも勉学な方であったと聞いております。

そんなことですから、スキーづくりにも大変情熱を燃やし、本場の高田を超え小賀坂スキーの名声は全国的に上ったということでございます。

大正８年には、宮内庁の命を受けて極上のスキーを献上し、翌大正９年には青森県大湊（現在のむつ市）要港部へ軍隊用スキー150台を納入しております。当時の150台ですから切ったり曲げたり、削っ